

直近年度の図書館協議会における主な意見等のまとめ

※会議録より抜粋。文面統合・省略等の加工あり。

令和2年度（第1回）	令和2年7月23日（水）14時～15時	中央公民館 視聴覚室
■1 令和2年度瑞浪市民図書館の業務計画について		
<p>Q1:小中学校ではブックトークを実施しているが、放課後児童クラブや児童館との連携はどのようか。 →学童クラブは団体貸付（50冊程度入替）、児童館ではボランティアによる読み聞かせを実施。ホームページに学校関係者向けのページを追加、見学やブックトーク等の要望を受付中。</p> <p>Q2:コロナ禍で多くの事業が中止となっている。無理して業務を進めるよりも感染対策をしっかり講じ、自重しながら様子を見ながら業務を進めていただきたい。 →情報の早期共有と迅速な対応に向け、職員の緊急連絡網としてLINEを活用することとした。</p> <p>Q3:新図書館システムについて、利用者からの反応はどのようか。 →セルフ貸出の利用は多いと感じる。子どもたちも楽しみにしている。借りる本を他人に知られたくない利用者もいるのでセルフ貸出機能を導入してよかったと感じる。</p>		
■2 瑞浪市民図書館資料収集方針・瑞浪市図書館資料除籍基準について		
<p>Q1:亡失数は年間どのくらいか。亡失の要因は何か。 →年間300冊程度。毎日1冊ずつ亡失している計算。要因は盗難。手続きせず持ち出される人がいる。特にパソコン関係や料理等の実用本の持ち出しが多い。必要なページだけ破くケースもある。職員の目の届く場所に置く等の対策により亡失数は減っている。</p> <p>Q2:どのように購入しているか。 →図書館職員が選定し、市の承認を得て市の予算で購入する。書店の減少、品薄、市の会計事務上はネット購入不可等の理由から、必要な本を適時に購入できないのが課題。</p>		

令和2年度（第2回）	令和2年10月20日（水）14時～15時	中央公民館 視聴覚室
■1 令和3年度瑞浪市民図書館の活動計画等について		
<p>Q1:コロナ禍で子どもたちが本と接する機会が減っている。小中学生はどのくらい来館しているか。 →土日は親子連れが増えてきている。平日は幼稚園・幼児園帰りの親子が来館しているが、小中学生の来館が少ない。特に学習室の利用が少ない。</p> <p>Q2:本当に必要な雑誌を購入しているのか。 →図書館要覧に購入・寄贈雑誌一覧を掲載している。類似雑誌や利用状況等を勘案して見直す。</p> <p>Q3:図書館まつりはどのようなことをしているのか。周知方法はどのようか。 →リサイクル本市・子ども向けの物づくり・読み聞かせ等。夏休みの4日間、閉館後の夜7時から8時まで開催するため、普段来館しにくい父母等が来館しやすい。4日間連続で来る子どもおり、スタンプカードを作って皆勤賞を設けている。広報の他、学校や公民館にチラシを配布。</p> <p>Q4:ボランティア講座の内容はどのようか。 →「図書館ボランティアの内容」「読み聞かせボランティアの養成」の2回を計画している。</p>		
■2 令和2年度蔵書点検結果報告について		
<p>（事務局）今回の蔵書点検では50冊の不明資料（盗難本）があった。セルフ貸出機能導入により不明資料が増えることを懸念していたが、影響はなかったと判断している。</p> <p>Q1:盗難防止装置を取り入れることはできないか。 →高額となるため、現状での導入は厳しい。</p> <p>Q2:盗難などの実態を知らせた方が抑制効果にもつながるのではないか。 →市報や図書館だよりの中に載せて、実態をアピールしていきたい。</p>		

■ 3 瑞浪市公共施設再編成プランについて

(事務局) 瑞浪市公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の再編を進めている。学校、幼稚園、文化施設、市営住宅等の全公共施設を対象に、今後 50 年間で延床面積 30%減を目指している。同時に瑞浪駅周辺の再開発計画もあり、駅北地区に複合公共施設を建設し、その中に文化ホールと図書館が入ることが計画されている。公共施設再編成プランに係るパブリックコメントが 12 月から始まる。図書館協議会委員の立場として、図書館を移設するうえでの要望等を今後お聞かせいただきたいと考えている。

令和 3 年度 (第 1 回) 書面開催

意見聴取期間：令和 3 年 6 月 25 日～7 月 14 日

■ 1 令和 3 年度瑞浪市民図書館の業務計画について

(委員意見)

- ・コロナ禍において、安全安心に配慮し、様々な対策を講じながら工夫して運営していると思う。
- ・恒例行事に加え新規事業にも取り組み、様々な展示・イベントが企画されていて、利用者が楽しみや変化を感じることができて良い。利用者目線で事業展開されていると思う。
- ・コロナ禍で不安感が漂う中、本を読むことで心が安らぎ、心の豊かさの醸成にもつながる。その大きな役割を担う市民図書館として、利用者の安心・安全を最優先に考え、様々な拡大防止策を講じる必要がある中、できることを熟考し、事業計画として打ち出されたことを労いたい。
- ・地域の方に向け、開かれた事業内容で良いと思う。他の団体を通して本の良さを知ってもらったり、手に取って調べたりすることは、体験にもつながり良い事業方法だと思う。
- ・涼しい夕方に図書館前の広場で開催されていた講演会を復活してほしい。有名な古典等、大人向けの読み聞かせがとてもいい雰囲気で満足したのを覚えている。

■ 2 瑞浪市民図書館資料収集方針について

- ・方針があり、基準に沿って収集されており良いと思う。
- ・分類・形態ごとに収集方針が詳細に、過不足なく定められていると思う。
- ・特に問題点は感じない。しっかりと基本方針ができていると思う。
- ・毎月多くの本が出版されている中での選定は大変だと思うが、今後も広い視野で選定されるよう期待する。
- ・平等性・正当性を保っていくために、とても重要な方針であると思う。

■ 3 瑞浪市図書館資料除籍基準について

- ・基準は妥当であると思う。
- ・利用状況やスペースの状態に応じ、雑誌の保存年数を短くしても良いと思う。
- ・昨年度も亡失する本の量の多さを聞いて驚いた。少しでも少なくなることを願うが、市民のモラルの問題なのでなかなか打つ手が見つからないと思う。
- ・一時期、公の図書館での毀損事案が連続して報道されていた。瑞浪市民図書館における毀損事案と亡失の状況を教えてほしい。
- ・地元関係の新聞記事のみ何らかの形で残すことはできないか。47 豪雨災害記事等、瑞浪市関連記事はデータによる永久保存でも良いと思う。
- ・雑誌の保存年数がきちんと決められていることは初めて知った。

■ 4 瑞浪市公共施設再編成プランにおける図書館について

- ・駅前周辺は老朽化が著しく開発の必要性を感じるが、中央公民館も図書館もさほど老朽化していないと思う。駐車場が狭いとは感じるが、今の場所がとても利用しやすいと感じる。駅北へは線路を越して行くため遠くなるイメージ。車なしでは行けない方も増えるのでは。
- ・なぜ駅北地区なのか。図書館の面積が小さくなれば蔵書数も減少せざるをえないが、図書館の機能を低下させ利用者にとって不利益となるのではないか、図書館にカフェ機能は必要か。もっと広く意見を求めるべきだと思う。

- ・人が集う場所となるために、現場で働いている方たちの意見や要望を積極的に取り入れながら再編プランが進められていくことを望む。
- ・市民図書館は、瑞浪市の歴史・文化等を後世に残す重要な役割を担うと同時に、市民の学習と憩いの場としての機能を有すべきと考える。再編にあたっては、市民ニーズをしっかりと把握し、市民目線に立った市民のための施設再編を希望する。併せて、家庭ではなかなか学習できない環境に置かれた学生のための学習スペースも現在同様確保されることを期待する。
- ・居心地の良い場が良いと思う。楽しみにしている。
- ・とても夢のあるプランであると思う。「未来の子どもたちに渡せるまち」という全体コンセプトの中にも図書館が中核として位置づいてほしいと願う。

令和3年度（第2回） 令和3年10月29日（水）14時～15時 中央公民館 視聴覚室

■1 令和3年度第1回図書館協議会（書面会議）の会議録の確認

【業務計画、収集方針・除籍基準について】

Q1: 瑞浪市関連記事は永久保存でもよいのではないか。著作権に係る注意点は？

→新聞の原紙を永久保存するにはかなりの場所が必要となるため、今のところは考えていない。データ版の閲覧は可能だが、コピーは本人が県図書館に行く必要がある。マイクロフィルムに残っているものなら瑞浪市民図書館でも代理でコピーができるが、料金と送料はかかる。新聞をコピーしてスクラップするのは著作権違反だが、新聞そのものをスクラップする行為は著作権違反ではない。TPP 環太平洋パートナーシップ協定に基づく著作権法の改正により、著作物の保護期間が著作物の死後50年から70年に延長された（平成30（2018）年施行）。新聞記事の場合、文を書いた人、写真を写した人の死後70年経たないと著作権がフリーにならないので図書館で保存するのは難しい。著作権取扱いマニュアルや研修について検討する。

Q2: 瑞浪市民図書館における毀損事案と亡失の状況はどのようか。

→報道にあがる程の大きな事案はないが、子どもが破く・水で濡らす等の事案は日常的にある。悪質なものとしては、古い資料への書き込み、雑誌の特集記事の切り取りが数件あった。6月に実施した蔵書点検では亡失が156冊。うち26冊が雑誌等の実用本。例年レシピ本の亡失が多かったが、DIY・日曜大工関係の亡失が増えた。館内の見回りを強化し、雑誌本をカウンター脇の職員の目の届く場所に配置する等の対策を講じている。パズルへの記入、割引券の切り取りに対しては、上からシールを貼付する等の対策を講じている。

Q3: 図書館前のリサイクル本の配布は年中行っているのか。

→今は実施していない。各公民館のイベントの際にリサイクル本を持って行くことは可能。

Q4: タブレット端末の活用により、本で調べものをする過程で得られる「こんなものもあるんだ」という気づきが少なくなり、考える力や漢字の書き取り力が弱くなっていることが懸念される。本から得られる知識があることを子どもたちに発信してほしい。

→窓口でカブトムシの事について教えてほしいと質問があったら、カブトムシに関連する本をいくつか持ってきて案内している。パソコンでキーワードを打てば関連する本が一覧で出てくるようになっている。図書館を見学に来た学校の子供たちには本のいいところを話している。ブックトークで図書館職員が学校で本を紹介した後、図書館に借りに来る子もおり、本を読むきっかけづくりになっていると認識している。

【公共施設再編プランについて】

Q6: 蔵書数・学習スペースが減り、図書館機能の低下につながるのではないか。

→現時点の計画では、図書館の面積・蔵書数の削減は考えておらず、学習スペースも拡充する方向である。皆様のご意見を聞きながら「多目的な人が気軽に訪れることができるサロン型の図書館」をめざして計画を進めている

Q7: 駅周辺が充実しても、他地区からは距離があり子どもや高齢者は行きにくい。市内で不均衡が生じないよう公共施設再編プランを進めていただきたい。決定報告ではなく、協議できる情報が欲しい。

→先進地視察で得た情報等を提供し、皆様のご意見を聞きながら進めていきたい。

■ 2 令和4年度市民図書館事業計画等について

事務局より、コロナ対策を講じながら各種事業を計画している状況を説明。

内容：市民図書館開設 50 周年記念講演「塩田武士の声」・新講座「日本史探求講座」(R3→R4に延期)、「本と緑のさんぽみち」・「図書館まつり」(再開)、月ごとのミニ展示・特集本展示等

意見：公共図書館は苦しい状況の中、働かれていると思う。コロナ禍で集客が困難な中、イベントや展示、講座の毎月の細かい工夫で今後も頑張っていたきたい。

Q1：本を消毒するボランティアの人数はどのくらいか。本の消毒はどのようにするのか。

→ボランティア 5 人と職員。ペーパーに消毒を湿らせて一冊ずつ拭いている。

(追記) R4.7 月以降は絵本のみの消毒に変更。手指消毒等の基本的な感染対策を継続中。

日本図書館協会の感染拡大予防ガイドラインに従い、適切な感染対策を講じている。

Q2：より多くのボランティアの参加を得るために、「ボランティア募集」だけでなく具体的な内容・日時等を明示したらどうか。

→コロナ禍で辞めた人もおり、ボランティアの人数が 90 人くらいから 70 人くらいに減った。コロナ禍でも活躍の場が確保できるよう、ボランティアの内容拡充も図りたい。

(3) 利用者閲覧心得について

事務局より、啓発の意図や、近隣図書館での訴訟問題・クレーマー対応に疲弊して退職する職員の実態等を説明。

Q1：図書館に一日居座る利用者はいるか。

→他市の図書館では長時間滞在防止の動きもある。当館では少しでも休んでほしいと考えている。

令和 3 年度（臨時意見集約）

意見聴取期間：令和 4 年 2 月 18 日～3 月 4 日

■ 瑞浪駅周辺まちづくり基本方針【案】に対する意見

(図書館関連部分のみ抜粋)

- ・利用者 と 働く 人の 動線、使いやすさを重視して欲しい。サロン型となることで、利用者のマナーにより気を配る必要があり、また書庫の利用が増えることで、働く人の負担が増える可能性があることを考慮して欲しい。ぜひ働く方々の意見を積極的に取り入れていただきたい。
- ・サロン型ゆえに居づらくなる人への配慮が必要。個室や区切られた空間などがあると良い。
- ・図書館の基本的な機能を十分に果たすために、書庫のスペースの充実が必要。
- ・市民図書館は、瑞浪市の歴史・文化等を後世に残す重要な役割を担っているものとする。同時に市民の学習と憩いの場としての機能を有すべきとも考える。再編にあたっては、市民ニーズをしっかりと把握し、市民目線に立った市民のための施設再編を希望する。
- ・家庭ではなかなか学習できない環境に置かれた学生もいると思う。学生の学習スペースも現在同様確保されることを期待する。
- ・居心地の良い場が良いと思う。とても夢のあるプランだと思う。「未来の子どもたちに渡せるまち」という全体コンセプトの中にも図書館が中核として位置づいてほしいと願う。
- ・現在の図書館の蔵書量が中途半端だと感じていた。今はスマートフォン等で簡単に本が何冊でも読むことができる。極論だが、スマートフォン等で本を読む権限(機能)を与えてもらえば、図書館がなくてもよいのではないか。読まれることのほとんどない本を何冊も保管するのではなく、多額の費用をかけるなら他の機能を充実させる方向に使うのはどうか。今の時代に合った魅力がある施設づくりをして欲しい。
- ・キッズスペースは、ただ遊びにくるためのスペースではなく、家庭教育等に関する相談場所が併設された方がよいのではないか。施設のことだけを考えるのではなく、そういった相談場所に派遣される人材等について検討する等、人が育ち・幸せを求めることができる施設を実現するための視点に立って方針を示してほしい。